「笹川杯作文コンクール 2011」～中国語で応募～ 第 1 回優秀賞作品

※原文に忠実に和訳しました。

苦境にあっても、希望は必ず見えてくる

山西省　趙春

３月 11 日の夕方、パソコンのモニタ-が故障して憂鬱だった私は一つの驚くべきニュースに触れた－日本の東北地方沿岸で強烈な地震が発生し、津波や放射性物質漏洩事故など様々な二次災害を呼び起こし、人命や財産に深刻な損失をもたらしたというのだ。

その後、中国メディアは絶えずこの大地震関連のニュースを報道した。降って湧いた災難の話に、周囲の誰もが心を痛めた。目の前の壊れたモニターのように、突然やってきた災害と事故により、東北地方は傷だらけになってしまったのだ。何万もの命が一瞬で奪われ、絵画のような郷里が廃墟になり果ててしまって…震災後の日本には、しなければならないことが多すぎる。海を挟んで隣の中国人には、言いたいことがあまりにもたくさんありすぎる。大震災から時間が経ってしまったが、胸の内を率直に述べたい。日本よ、私があなたに言いたいこととは…

日本よ、私があなたに言いたいこと。あなたが受けた災難は、似たような痛みを経験した私達にも辛いものであるということです。中国人の感じていることを一言で語れと言われたら、“同じ気持ちです”ということになります。災難に直面して急に気づくのは、元もと人にはこれ程深く共通するところがあるということです。それは、中国人であっても、日本人であっても。ブン川、玉樹から宮城、仙台に至るまで、地震は私達の冷静さと強靭さを教えてくれました。地震は自然への畏敬の念、命の大切さ、そして互いに助け合うこと、心に刻むこと、恩を感じることも教えてくれたのです。災難を前に、他人の不幸を喜んでほくそ笑む資格など誰にもないのです。距離を置いて傍観を決め込むことさえ、誰にもできないのです。地震災害の救済は、私達が共に担った使命である。お互いに力を貸し合うことは、人として断ることのできない責任です。全ては、ただ私達が一衣帯水の隣人であり、同じ地球村に住んでいるからだけのことです。

日本よ、私があなたに言いたいこと。涙を拭いて、奮起して、頑張って！ということです。私達が涙を流しているのは、私たちの心に余りに多くの悲しみがあるからです。一郷里が地震と津波で破壊され、身内が永遠に去ってしまったとき、涙以上にこの心を表せる言葉はありません。涙は流れるままにしましょう。身内がいなくなっても、日々は続いて行きます。街がなくなったら、廃墟の上に新たな街を築くのです。３年が過ぎ、中国ブン川の“5.12”地震の被災者は、兄弟省市の強力な支援のもと、新しい家を建て、新しい郷里を築き、新しい生活を始めました。ニュースによると、彼らの新居は以前よりしっかりしており、新しい街は元より美しく、新しい生活は以前より素晴らしいものだそうです。災難は過ぎ去ります。人と自然があれば、人さえいれば、望みはあると言いたいのです。

日本よ、もう一つ私があなたに言いたいこと。あなたは、自分は離れることのできない中国の隣人であると言っていますが、ただでさえ近所なのに、離れることもできないのなら、よく付き合い、よき隣人であるべきだということを、私は言いたいのです。中国にも“遠くの親戚より、近くの他人”という諺があります。遠くの親戚だろうと隣人だろうと、道理は通じているのです。お互いに誠意を持って理解し、寛容に接して、日頃からまめに行き来し、何事かがあればしっかり面倒を見るということです。ご近所さんは行き来すれば

するほど近くなり、親戚は付き合えば付き合うほど親しくなれるのです。一般市民の暮らしがそうであるように、国と国との付き合いもこうした道理なのです。一方が災難にあった時には、私達は隣人として、より力を出し合うべきです。

2004 年のインド洋から、2008 年のミャンマー、中国、2010 年のハイチ、2011 年の日本まで…この世界はこんなにも災難に満ちています。地震、津波、洪水、ハリケーンと、災難が続々と襲ってきて歴史を塗り替え、世間の人を震撼させています。“天地は仁ならず、万物を以て芻狗と為す（天地に慈悲はなく、存在する万物はわら細工のようなもの）”、春爛漫なはずの景色も、時には色濃い悲しみで満たされているということもあるのです。今回の日本の大地震が、また人々の心の中の哀悼の気持ちを呼び起こし、その気持ちを大きくしました。善良な人々は、思わずと問いかけたくなるのです。「地球よ、あなたは、いつまで苦しめなければならないのですか？」と。

私が日本に言いたいこと。この世界で災害が発生すると、その影響力は一つの地域、国、州に限られたものではなく、世界全体、全人類へと広がっていくということです。だから、災害が起きたら、私達は互いに助け合って、共に困難を克服しなければならないことを、全ての人々は理解しているのです。「天道人を殺さず」であり、私達は頑張ってこの苦境を越えねばならないのです。苦境にあっても、希望は必ず見えてくるのです。